

令和5年度 第1回 平塚市美術館協議会 会議録

- 開催日時 令和5年8月4日(金) 14時00分～15時30分
- 開催場所 平塚市美術館 研修室
- 出席者 委員 吉村維元、靱山昌夫、獅々倉聡、木村一彦、森下志麻、鈴木憲子、高橋孝祥、上原幸枝（敬称略）
- 事務局 平井社会教育部長、加藤特別館長、戸塚館長、勝山学芸担当長、江口学芸員、家田学芸員、安部学芸員、高倉館長代理兼管理担当長、平本主査

■傍聴者 なし

■会議の概要

- 1 開会
- 2 委嘱状の交付
- 3 社会教育部長あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 職員紹介
- 6 平塚市美術館協議会について
- 7 「造形作家 玉田多紀 ダンボール物語」、「さとびとみやび 失われた理想郷を求めて」観覧
- 8 議題
 - (1) 正・副会長の選出について
 - (2) 今後のスケジュールについて
 - (3) 令和5年度事業について（これまでの事業報告及び今後の事業予定）、事務局から説明
○作品 ○展覧会 ○教育普及 ○その他の事業 ○施設利用者等の統計
 - (4) その他
- 9 閉会

■委嘱状の交付

社会教育部長から委嘱状の交付を行った。

■社会教育部長あいさつ

委員会開催にあたり、社会教育部長から挨拶があった。

■議題及び質疑

(1) 正副会長の選出について

会長に吉村維元委員、副会長に靱山昌夫委員を全員一致で承認し、選出した。

(2) 今後のスケジュールについて

協議会委員の2年間の任期中の会議開催予定について事務局から説明した。

(3) 令和5年度事業について（これまでの事業報告及び今後の事業予定）

今年度これまでの展覧会事業、教育普及事業について、内容・会期・関連事業のほか、施設利用者の統計と下半期の展覧会事業の内容・会期・関連事業等、教育普及事業の主なワークショップの内容等を事務局

から説明。

(質疑)

委員 これまで平塚市美術館は市民が親しみを持てるとともに多くの市民に来館いただけるよう、地域に根差した作家の展覧会や、いわさきちひろ展や深堀隆介展など、集客力の高いものをやってきた。特別館長が代わって、方向性は変わらないのか。

事務局 基本的な考え方は、これまでの方針を引き継ぎながら、今の時代、何が求められているのかを館内で常に研究しながら新たに付け加えていきたいと考えている。その一つとして、美術館の中だけに留まらないという傾向を多くの美術館が持っている。当館では、実験的な一つの試みとして、現在開催している「造形作家 玉田多紀 ダンボール物語」に関連して、ひらしん平塚文化芸術ホールのエントランスギャラリーにおいて、小さな展示を行っている。その中で皆様の反応を受け止めながら新たな方向性を考えていきたいと思う。

具体的には、当館では2つある展示室を活用し、大衆的なものと専門性のあるものを両立すること。幅広い年齢層や、より多くの市民に親しんでいただけるような展覧会やワークショップを実施する。また、四季に応じた展覧会を実施するという、これまでの方針を基に館内で研究・検討した内容を新たに付け加え、小回りの利く美術館として様々な方々に満足いただけるような美術館としていきたい。

委員 館内だけに留まらず、ひらしん文化芸術ホールとの連携による展示は大変興味深い。平塚駅とひらしん文化芸術ホール、そして美術館のトライアングルで連動して地域が活性化すると良いと思う。

委員 展覧会事業において、助成金をいただいているものがあるとの説明だったが、財政事情が厳しい中、より良い展覧会を開催するために助成金をどのように探し活用しているのか、苦労していることがあれば聞かせてほしい。

事務局 助成を実施している団体からの案内や、ネットを使って助成金を検索し、館内で情報共有しながら、作家に対する助成なのか、館に対する助成なのかを見極めながら、展覧会の開催に有効な助成金を申請するよう努めている。助成金を予算化するには、議会の議決が必要であり、いただける時期と手続きとの兼ね合いで年度当初の展覧会に利用しにくく、補正予算を組んで秋以降の展覧会開催に利用しているところや、助成金によって事業を実施した結果を報告書にまとめることなどが苦労している点である。

委員 子どもも楽しめる美術館になってきており、お子さんの来館者も多く、事業の一環で学校にも来ていただいたくことも多い。今後も、子どもが楽しめる美術館であってほしい。

(3) その他

特になし

■閉会

特別館長より閉会を告げた。

次回は令和6年3月に開催予定。